

第70回さっぽろ雪まつり協力



(発行所)
11特OB会

(連絡先)

札幌市南区
真駒内17番地

第11特科隊
広報援護室
TEL (011)-581-3191
内線2645

(印刷)
札幌造型合同会社



主な記事

- 二面 第2中隊冬季訓練検閲
- 三面 平成30年度特科隊冬季山岳機動訓練
- 四面 平成30年度家族スキー教室
- 五面 隊内生活体験入隊
- 六面 定年退官者・OBへのお願い



▲完成した大雪像「Hard Rock Family Live～初音ミク&戸山香澄 On Snow Stage～」



▲防衛大臣政務官の視察



▲北海道知事の激励



▲札幌市長の激励



▲古平町長の激励



▲自衛隊家族会の激励



▲日本生命の慰問



▲明治安田生命の慰問



▲上段部の粗削り



▲深夜に行われた雪像の補修 (2月6日)

第11特科隊(隊長高山1佐)は、第11偵察隊(隊長品川2佐)、第11高射特科中隊(中隊長久保2佐)と共に、第1雪像制作隊を編成して、平成31年1月7日から2月3日までの間、第70回さっぽろ雪まつり協力において、大通4丁目STV広場に大雪像「Hard Rock Family Live」初音ミク&戸山香澄 On Snow Stage」を制作した。

平成31年1月7日、安全祈願式並びにノミ入れ式終了後、5tトラック約650台分の雪を積み上げるとともに、重機やチェーンソーによる粗削りを実施して、大雪像を概成させた。

その後、ノミ等による細部彫刻、化粧雪を使用した総仕上げにより、大雪像を完成させ、2月3日、札幌テレビ放送株式会社(STV)に引き渡した。

雪像制作間には、防衛大臣政務官、北海道知事、札幌市長、古平町長を始め、札幌自衛隊家族会小樽支部、OB会を含む多くの協力団体等から激励を頂いた。また、自衛官募集のぼりの設置、訓練写真パネルの掲示及び中帽(ヘルメット)へのステッカー(「地域とともに」)の貼付により、自衛隊のPRを行った。また、雪まつり開催中は、毎日観客のいない深夜、雪像の補修に努めた。

会場に訪れた観客からは、「すごい迫力」「可愛い」等の感想を頂き、夢と希望と感動をお届けした。大雪像は、2月12日に解体され、無事任務を完遂し、翌13日に駐屯地内において、雪像制作隊は編成を解組した。

第2中隊冬季訓練検閲



▲迅速に陣地進入する火砲

▲統裁官訓示を受け検閲に臨む第2中隊長

25日には、真駒内駐屯地において、訓練検閲の総評を行い、部隊としての評価を伝達するとともに、小林士長を優秀隊員として、表彰した。

▲迅速に陣地進入する火砲
前8時、訓練検閲を終了した。遺憾なく発揮して、23日午前8時、訓練検閲を終了した。

▲統裁官訓示を受け検閲に臨む第2中隊長
松・恵庭地区)において状況を開始した。交戦訓練用装置(ハトラ)を装着した各隊員は、集結地占領に続き、陣地占領(陣地占領の準備、陣地の占領、陣地変換)を、極めて実践的な状況下において訓練した。

▲統裁官訓示を受け検閲に臨む第2中隊長
第2中隊長(中隊長千葉3佐)は、18日午前8時30分、真駒内駐屯地における隊長訓示を受け、20日午後2時から北海道大演習場(島松・恵庭地区)において状況を開始した。交戦訓練用装置(ハトラ)を装着した各隊員は、集結地占領に続き、陣地占領(陣地占領の準備、陣地の占領、陣地変換)を、極めて実践的な状況下において訓練した。

第11特科隊(隊長高山1佐)は、平成31年2月18日から2月23日までの間、北海道大演習場(島松・恵庭地区)において、旅団冬季訓練検閲の場を活用して、第2中隊訓練検閲を実施した。

本検閲は、冬季における射撃中隊の行動について評価して、その進歩向上を促す事を目的とした。

特に状況の特質に適合した火力運用、冬季の特性を踏まえた部隊運用、部隊の基本的行動並びに基礎動作を主要検閲項目とした。



▲やまぶき会会員による雪像見学会及び激励



▲やまぶき会懇親会

平成30年度 やまぶき会総会・懇親会

平成31年度事業計画

- 7月 おたる潮まつり 特科隊創立記念行事
- 8月 真駒内駐屯地盆踊り 隊武道競技会
- 10月 特科隊実射検閲
- 12月 訓練公開 特科隊年末行事
- 1月 雪まつり見学会及び総会

▲やまぶき会懇親会
第11特科隊(隊長高山1佐)は平成31年1月27日、大通り4丁目会場STV広場において、隊の後援団体となる、やまぶき会会員に対して、雪像見学会を実施した。

平成30年度 特科隊冬季山岳機動訓練



▲地図判読及び捜索訓練



▲重装備によるスキー機動



▲急斜面での搬送訓練

また、より現実に近い環境下での訓練は、冬季山岳機動要員の個々の技術、隊員相互の連携及びリスクマネージメント等、冬季における訓練の重要性を改めて認識できた、実りのある訓練となった。

第11特科隊(隊長高山1佐)は、平成31年1月21日から2月1日までの間、真駒内駐屯地、朝里岳、余市岳及び管理者のご好意により、キロロスキー場周辺を使用して、平成30年度特科隊冬季山岳機動訓練を行った。隊の冬季山岳救助要員の練度の維持、新規参入要員の練度向上を図る目的で行われ、各中隊のスキー指導官を始めとする精鋭計12名が参加した。

当初、真駒内駐屯地において基礎訓練としてロープ訓練及び要救助者の引き上げ、搬送要領を演練し、朝里岳、余市岳及びキロロスキー場周辺において実地訓練の生地訓練に向けて準備を万全にした。

その後、生地訓練として、小樽警備地区内の把握、重装備によるスキー機動及び、冬季山岳地帯における地図判読、要救助者の引き上げ・搬送訓練を厳しい状況下で行い、救出・救助に必要な技術を演練した。

本訓練地域は、平成27年2月及び3月にキロロスキー場近郊のバックカントリーにおいて、遭難したスキーヤーを、災害派遣任務で捜索した険しい地域であり、参加者からは、「厳しい訓練環境の下、緊張感を持ち、状況に応じた対処行動を訓練できた。想像以上に体力を消耗し、冬季における行動の難しさを改めて実感した。要救助者の救出・救助の際には、訓練で得た技術を最大限に活かしたい。」とのコメントがあり、訓練の過酷さが伺えた。



▲宣誓をする幹部任官者 (左 松村3尉 右 前川3尉)

平成30年度 幹部任官行事

第11特科隊(隊長高山1佐)は、平成31年3月16日、真駒内駐屯地及び同周辺地域において、平成30年度幹部任官行事を行った。

本行事は、幹部任官者2名に対して、災害派遣時の即動小隊長及び偵察長の派遣前の指揮手順を体験・理解させ、幹部自衛官として必要な資質の涵養を図る目的で行われた。

雪の降りしきる中、午前4時に電話呼集により状況は開始され、偵察準備、災害派遣現場である札幌護国神社の偵察及び、護国神社からの帰隊報告の際には、車両故障の状況付与をされるや否や、持ち前の責任感のもと、駆け足での帰隊を状況判断して、約6kmの道中を走破した。また、真駒内駐屯地到着後には、負傷した自衛隊員を発見して、2名は、気力を振り絞り、団結心を発揮して、アキオでの要救助者の搬送を行った。報告先では、二人の幹部任官を祝福するために集まった、特科隊員達が見守る中、「幹部の心構え」を報告して、幹部自衛官としての使命感の重要性を認識する等、あらゆる状況を克服して、見事に任務を達成した。

任務完了後は、幹部自衛官任官行事が行われ、真新しい階級章の受領、隊長への任官申告及び、幹部自衛官としての決意表明を実施して、第11特科隊の幹部自衛官として、第一歩を踏み出した。

--	--	--	--

平成30年度 家族スキー教室



▲真剣に先生の話聞く子供達



▲初めての子供でもすぐ上達



▲参加者全員での記念撮影



▲手取り足取り優しい先生による指導

第11特科隊(隊長高山1佐)は、平成31年1月11日及び12日、札幌市藤野野外スポーツ交流施設(Fussnow area)において、第11特科隊所属の隊員家族に対し、スキー教室を開催した。

本スキー教室は、部隊と隊員家族の連携強化の為に、第11特科隊曹友会(会長 桶谷1曹)が主体となり、第11特科隊所属のSAJ指導員、準指導員及びスキー指導員の資格を持つ隊員により、平成22年から毎年実施しており、今年で10回目の開催となった。

スキー教室はナイターでの開催にもかかわらず、43名の子供達が参加をして、中には初めてスキーをする子供達もいたが、最終日には、山頂から一人で滑れるまでに上達して、保護者・子供共々に大変喜んでいた。また、誠意をもって指導に当たった隊員達も達成感と充実感を得て、無事に2日間のスキー教室を終了した。



▲威风堂々と試合に臨む特科隊



▲見送られる特科隊代表選手達

第59回 北海道銃剣道選手権大会

第11特科隊(隊長高山1佐)は、平成31年3月30日及び31日、恵庭市総合体育館で行われた、第59回北海道銃剣道選手権大会に参加した。

本大会は、青年の部(25歳以下)と成年の部(26歳以上)に区分され、隊は各部2個チームの計4個チームが競技を行った。

各チームは、これまでに練成した成果を遺憾なく発揮し、強豪チームを相手に手に汗握る熱戦を繰り広げ、中でも成年の部の11特Bチームは、準々決勝まで勝ち上がり、5特Aチーム(成年の部第2部優勝)に善戦したものの、惜しくも1本差で勝利を逃した。

隊は、本大会に出場した選手の中から更に選出し、平成31年4月21日に日本武道館で行われる第63回全日本銃剣道優勝大会での健闘を誓った。

監督 森崎 1曹 (第3中隊)
選手紹介

- | | |
|----|--------------|
| 大将 | 齊藤 3曹 (第3中隊) |
| 副将 | 内山 2曹 (第1中隊) |
| 中堅 | 宗像 2曹 (第3中隊) |
| 次鋒 | 西川 2曹 (第2中隊) |
| 先鋒 | 石嶋 3曹 (第1中隊) |

第17回 北海道自衛隊拳法選手権大会

第11特科隊(隊長高山1佐)は、平成30年12月8日及び9日、旭川駐屯地で行われた、第17回北海道自衛隊拳法選手権大会に参加した。

本大会は、団体戦と個人戦(軽量級・中量級・重量級・無差別級)区分され、隊からは、団体戦1個チーム及び各級個人戦にそれぞれが参加をした。

団体戦においては、昨年も対戦した、第2特科連隊(旭川)と今年も対戦となり、健闘はしたものの惜しくも敗れたが、個人戦重量級の部において平塚3曹(本部管理中隊)が、軽量級の部において西村士長(第1中隊)が共に勝ち進み、平成31年3月16日に、朝霞駐屯地で行われる第35回全自衛隊拳法選手権大会の参加資格を見事手にした。

本大会に初出場する、西村士長からは、「隊を代表、全力で頑張ります」との決意表明もあり、健闘に期待がかかった。

監督 藤原 1曹 (本部管理中隊)
選手紹介

- | | |
|----|----------------|
| 大将 | 山口 3曹 (第2中隊) |
| 副将 | 末永 士長 (第3中隊) |
| 中堅 | 平塚 3曹 (本部管理中隊) |
| 次鋒 | 今野 2曹 (第2中隊) |
| 先鋒 | 露木 士長 (第2中隊) |



▲闘志を燃やし試合に臨む



▲中堅平塚3曹

平成31年度 隊内生活体験入隊

第11特科隊(隊長高山1佐)は、平成31年4月9日から11日までの間、真駒内駐屯地において小樽市銭函に所在する極東高
分子株式会社の新入社員14名に対して、平成31年度隊内生活体
験を実施した。

隊内生活体験は、自衛隊の教育訓練課目及び営内生活体験を
通じて、集団生活における規律心及び協調性の育成・向上を図
るとともに、自衛隊に対する理解と信頼感を醸成するため、平
成20年から実施している。

初日は、入講式から始まり、副隊長河野2佐による防衛講話
のほか、駐屯地史料館見学等を行った。2日目の午前は、晴天
とはいえ寒さを感じる中、駐屯地内約10kmを徒步行進して、
疲労に耐えつつ見事全員が完歩した。午後は、装備品展示及び
82式指揮通信車の体験搭乗により、自衛隊の装備に触れること
もに、人命救助システム研修並びに野外衛生(救急法)の訓練
を通じて、人命救助の重要性を学んだ。

最終日は、精神教育において、愛国心を養うとともに、修了
式では堂々とした面持ちで、修了証書を受け取り、3日間の隊
内生活体験を終えた。

隊内生活体験参加者からは、「3日間の生活体験で礼儀・時
間の大切さ・チームワークを学びました。」「行進訓練は、辛
かったけど、達成感を感じました。」「コミュニケーション・
挨拶・笑顔が重要」等の感想・所見があり、所要の目的は達成
された。
教育終了後は、特科隊による見送りをを行い、隊内生活体験者
は、3日間を共に過ごした班長・班付等に感謝しつつ、別れを
惜しみながら、駐屯地を後にした。



▲徒步行進訓練



▲装備品展示(99式自走155ミリりゅう弾砲)

第6代第11特科隊 最前任上級曹長 大槻 准尉 着任

第6代最前任上級曹長に3月25日
付もって上番した大槻准尉です。
あらためて、この職の重責を感
じております。指揮官補佐、下意
上達、上意下達、基本基礎の徹底
はもろろんの事、各中隊の先任上
級曹長と連携、情報の共有を図り、
歴代の先任上級曹長が受け継いで
きた部隊の歴史と伝統を継承して、
隊員、後輩の育成に全力を尽くす
所存です。
皆様の、ご指導ご鞭撻を宜しく
お願い致します。



第6代 第11特科隊 最前任上級曹長
准陸尉 大槻 哲



▲離任最前任上級曹長 柴田准尉(左)との固い握手

3月転出者

隊本部

二等陸佐 両角 寿
第一特科隊(北富士)へ

三等陸佐 玉谷 大志
第四地对艦ミサイル連隊(八戸)へ

一等陸尉 山口 春喜
西部方面総監部(健軍)へ

三等陸尉 中谷 圭吾
第十一旅団司令部付隊(真駒内)へ

本部管理中隊

一等陸尉 望月 大
西部方面特科隊(湯布院)へ

陸曹長 後藤 純
札幌地本援護センター(札幌)へ

一等陸曹 堀 浩二
対特殊武器衛生隊(三宿)へ

二等陸曹 青山 茂樹
第二特科連隊(旭川)へ

三等陸曹 前田 壮一郎
第十即応機動連隊(滝川)へ

第一中隊

一等陸曹 鈴木 真吾
北部方面混成団第一陸曹教育隊
(東千歳)へ

三等陸曹 金山 結己
札幌地方協力本部(札幌)へ

第二中隊

三等陸尉 友近 正貴
第十即応機動連隊(滝川)へ

一等陸曹 桶谷 昭純
滝川駐屯地業務隊(滝川)へ

一等陸曹 木下 盛利
北恵庭駐屯地業務隊(北恵庭)へ

二等陸曹 奥山 勝
第二特科連隊(名寄)へ

二等陸曹 河原塚 朋幸
小平学校(小平)へ

第三中隊

二等陸尉 神野 勝紀
第十即応機動連隊(滝川)へ

准陸尉 戸塚 丈仁
第一師団司令部付隊(練馬)へ

二等陸曹 田中 潤
北部方面総監部付隊(札幌)へ

三等陸曹 藤野 裕輔
第五特科隊(帯広)へ

三等陸曹 尾崎 雄大
自衛隊中央病院(三宿)へ

新任地での ご活躍を お祈りいたします。

3月転入者

第7代 副隊長



河野 浩一郎
出身地 熊本県
前勤務地 北部方面総監部
陸上連絡官(三沢)

隊本部

三等陸曹 田中 寛人
第一地对艦ミサイル連隊 (北千歳) より

一等陸尉 柏木 佳親
第一特科群 (北千歳) より

本部管理中隊

二等陸尉 中村 健二
第一特科団本部中隊 (北千歳) より

陸曹長 続池 悟
第二特科連隊 (旭川) より

陸曹長 澤田 亮
第十一後方支援隊 (真駒内) より

二等陸曹 合田 豊
北部方面指揮所訓練支援隊 (東千歳) より

三等陸曹 濱谷 保奉男
北部方面情報隊第三〇一沿岸監視隊派遣隊 (礼文) より

三等陸曹 赤坂 光
北部方面混成団第二陸曹教育隊 (仙台) より

三等陸曹 渡辺 美久
富士教導団特科教導隊 (富士) より

第一中隊

二等陸曹 山本 裕介
北部方面混成団第一陸曹教育隊 (東千歳) より

三等陸曹 齋藤 芳幸
富士教導団特科教導隊 (富士) より

三等陸曹 緒方カールソン
アーサー
富士教導団特科教導隊 (富士) より

三等陸曹 今村 聖吾
第五特科隊 (帯広) より

第二中隊
一等陸曹 本田 光博
真駒内駐屯地業務隊 (真駒内) より

一等陸曹 阿部 孝広
第五特科隊 (帯広) より
二等陸曹 鈴木 裕治
開発実験団 (富士) より

第三中隊
二等陸尉 光永 聡
防衛大学校 (横須賀) より

三等陸曹 中村 遼太郎
第五特科隊 (帯広) より
三等陸曹 戸倉 雅史
阪神病院 (川西) より

三等陸曹 山崎 勇太
富士教導団特科教導隊 (富士) より

ようこそ特科隊へ。
これからよろしく
お願いいたします。

1月昇任者

二等陸尉へ
黒川 修史 (本部管理中隊)

陸曹長へ
矢取 道春 (本部管理中隊)
勝谷 孝一 (第三中隊)

一等陸曹へ
當間 太一 (本部管理中隊)
藤原 愁平 (本部管理中隊)
木下 盛利 (※第二中隊)

二等陸曹へ
及川 優太 (第一中隊)
渡邊 駿 (第三中隊)

三等陸曹へ
杉原 栞 (本部管理中隊)
林 健斗 (第一中隊)
藤本 航 (第一中隊)
櫻井 晶 (第三中隊)

陸曹候補生等指定
高橋 彩織 (本部管理中隊)
伊藤 正和 (第一中隊)
露木 竜也 (第二中隊)
山上 太駆 (第三中隊)

※印は、3月転出者

昇任おめでとう
ございます。

定年退官者



川崎曹長
31. 1. 17付
(北広島市)



青田3佐
31. 2. 13付
(ニセコ町)

永きに回る北の防人
お疲れ様でした。

(一)については定年後の就業地

OB会からのお知らせ

特科隊への協力(事業計画)
隊創立記念行事支援

特科隊検閲支援 (8月)

各種競技会等支援 (12月・2月)
後期新隊員対する激励 (7月)

やまぶき新聞発刊 (1・4・8月号)

行事

ゴルフ大会 (8月31日)

パークゴルフ大会 (9月)

懇親会 (11月16日)

イベント情報 (4~8月)

▲問い合わせ先
第11旅団広報室
電話〇一一一五八一―三二九二 (内線二二五二)

▲問い合わせ先
真駒内駐屯地盆踊り大会
場所 真駒内駐屯地
時期 8月7日 (水)

▲問い合わせ先
真駒内駐屯地広報室
電話〇一一一五八一―三二九二 (内線三九〇五)

OBの方へ連絡とお願い

一 入門証について

現在、期限切れの入門証をお持ちの方で今後も必要とされる方は、更新手続きをお願いします。手続きに関しては、「特科隊広報・援護室」にて行っています。

電話〇一一一五八一―三二九二 (内線二六四七) 担当 嶋田

二 叙位及び死亡叙勲に関する手続きについて

自衛隊員として勤務され、在職中の功績と一定の要件が満たされた方は叙勲の対象となります。特に死亡叙勲は、ご遺族からの申し出によって手続きを進める事になりますが、手続きの期間が限られており、この期間を過ぎますと叙勲が受けられなくなりますので、万が一ご本人が亡くなられた場合には、死亡日を含め五日以内に最寄りの防衛省各機関、部隊等へ連絡することを各家族共々くれぐれもお忘れの無いようお願いいたします。

三 その他

特科隊隊舎一階には特科連隊時代の歴史を展示した広報展示室がございます。ご訪問の際にはお気軽にお立ち寄りください。

電話〇一一一五八一―三二九二 (内線二六四六) 担当 吉田